

科目名	英語圏文化特殊研究	担当者	マツオカ 松岡 ナオミ 直美	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、世界的に優れていると認められた現代英文学（2017年ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの小説群）の言語・手法・批評態度を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. 世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。</p> <p>II. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>メタ・フィクション、ジャンル小説、パスティシュ、間テクスト性、信頼できない語り手など、イシグロのポストモダニティを読み解き、その特徴と文学的効果を理解する。さらに、構築された空想物語に、戦争協力の責任、植民地主義の超克、利己主義故の差別や迫害、個人及び集団による歴史の改ざんと忘却といった社会と個人との関わりについて問題提起がなされていることを理解する。こうした、正に今日的かつグローバルな問題について議論するための倫理的かつ公正な文化リテラシーを修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>i. 多層的な英語テキストを正確に説明できる。(知識・解釈)</p> <p>ii. 虚構世界に埋め込まれた現実の問題を説明できる。(知識・想起)</p> <p>iii. 先行研究および社会・時代状況を踏まえ、学術的に批評できる。(技能・コントロール)</p> <p>iv. イシグロの世界認識とポストモダニズムについて、自らの文化的・倫理的観点から議論できる。(態度・反応)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>① 基本教材を熟読し、理解を深める。(自習)</p> <p>② リポート課題に沿った先行研究および関連資料の収集と評価・分析を行う。(自主研究)【SB0 iii】</p> <p>③ リポートを作成する。1) 論旨をまとめる, 2) 構成を決める, 3) 論旨のサポートに必要な資料を選択・挿入する, 4) 本論を執筆する, 5) 改編・改定・修正を行う, 6) 注および参考資料一覧を作成する。(リポート作成)</p> <p>④ manaba folio での掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるリポート添削での教員と受講生とのディスカッションにより、リポートの最終版を完成させる。最後に受講生間で相互評価を行う。(ディベート)</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>リポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>1) 教材の学修: 20時間 2) リポート執筆: 10時間 3) リポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導, ピア・レスポンスを含む): 15時間</p>		
スケジュール	<p><前期> ・リポート課題1 締切: 初校6月末 最終稿は学事歴で定められた日までに提出する</p> <p>・リポート課題2 締切: 初校8月末 最終稿は学事歴で定められた日までに提出する</p> <p><後期> ・リポート課題1 締切: 初校10月末 最終稿は学事歴で定められた日までに提出する</p> <p>・リポート課題2 締切: 初校12月末 最終稿は学事歴で定められた日までに提出する</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	リポート	80%	教材を精読理解し、先行研究等関係資料を参照し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。 リポートの内容(構成、論旨、引用文献、独創性): 50% 提出状況(期限の順守、初稿から最終稿までの改善度等): 30%
	観察記録	20%	メールやmanabaを活用して積極的に課題に取り組んだか評価する。
履修者への要望	<p>リポート作成は博士論文執筆に向けての重要な準備プロセスである。原語テキストを精読することが最優先課題だが、適宜、日本語訳を参照してもよい。先行研究については、検索・収集・評価を行い、これらを起点、あるいはサポートとして自らの考察を深め、自らの言葉で議論し、論文に纏めていくことが重要である。リポート1編ずつに真摯かつ丁寧に取り組むことで、論文作成のための思考能力と技術を高めてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Kazuo Ishiguro 教材名： <i>The Remains of the Day</i> . 1989. ISBN-13: 978-0571258246 1,268 円+税 (Paperback)
	貴族の館を舞台とする英国物語・執事ももの体裁だが、根本はナチ協力の主人に無自覚に服従した召使—everyman—の責任を問う心理小説である。古き佳き時代の英国、英国貴族の世界観、いずれもが 20 世紀に至っては幻想であるのだが、それに幻惑された人間の悲哀が信頼できない語り手の手法で緻密に描出されている。
参考図書	Gibaldi, Joseph. <i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> . 7 th Ed. Modern Language Association of America, 2009. ISBN:978-1-60-329024-1 2,904 円+税 (Paperback)
履修上のポイント	本作に先行する <i>An Artist of the Floating World</i> (1986) は同時代の日本を舞台とする日本物語で、同じく個人の戦争責任を取り上げている。両作品を比較考察することによって、イシグロの虚構世界の組立て方および信頼できない語り手の技法についてもよりよく理解できるであろう。また、 <i>The Remains of the Day</i> は映画化もされているので、鑑賞を勧める。異なる媒体を参照することによってもイシグロの語りが文学的に高度なものであることが納得できよう。
レポート課題 1	教材を精読し、いわゆる「英国物語」＝「英国という幻想」がどのように構築されているか論じなさい。(3,000 字) 留意点 ：イシグロは伝統的な貴族物語だけでなく、風刺作家 P.G. ウッドハウスのジューズ・シリーズなども参照しているのだが、そのような既成の物語や幻想をいかに借用、再利用しているか、さらに、それらをいかに転換、変容させ、現代の物語としているかにまで考察を進めること。
レポート課題 2	教材を精読し、「信頼できない語り手」のナラティブを解説し、評価しなさい。(3,000 字) 留意点 ：ヘンリー・ジェイムズの『ねじの回転』(1898) など、「信頼できない語り手」小説の系譜を参照しつつ、イシグロのナラティブの特徴を比較考察すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Kazuo Ishiguro 教材名： <i>Never Let Me Go</i> . 2005. ISBN-13: 978-0571258093 1,380 円+税 (Paperback)
	既に過去となっている 90 年代英国を舞台とする近未来小説である。クローン人間を培養育成して人間の臓器移植に供するという社会—既に出現しているディストピアであるが—を学園ものの体裁とクローン人間の「信頼できない語り」によって描き出している。社会制度としての教育が人間に他者化、差別、迫害を教え込む過程を明らかにしつつ、このような社会制度と個人の相克を内在化し、議論と考察を促している。
参考図書	Gibaldi, Joseph. <i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> . 7 th Ed. Modern Language Association of America, 2009. ISBN:978-1-60-329024-1 2,904 円+税 (Paperback)
履修上のポイント	SF, ディストピア物語, 学園物語を掛け合わせた虚構が提起する問題, およびクローン人間 キャシー・H という語り手の問題を読み解くこと。本作も映画化され、また日本では TV ドラマ化もされているので、これらを鑑賞し、参照することを勧める。
レポート課題 1	SF, ディストピア物語, 学園物語の系譜に照らして、 <i>Never Let Me Go</i> の虚構性を論じなさい。(3,000 字) 留意点 ：SF, ディストピア物語, 学園物語との近似性と相違を検証すること。
レポート課題 2	英語テキストを精読し、キャシー・H の語りを分析しなさい。彼女のナイーヴな語りと語り明かされる真相とのギャップを読者はどう受け止め、理解するのか考察しなさい。(3,000 字) 留意点 ：原文を精読し、キャシー・H の認識の限界、自己欺瞞、道義的責任について、他の登場人物とも比較しながら、考察すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の精読
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	「信頼できない語り手」小説の系譜を確認
第 9 回	「信頼できない語り手」小説の観点から教材を再読
第 10 回	「信頼できない語り手」小説の系譜における位置付け
第 11 回	「信頼できない語り手」小説の系譜における位置付け
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 4 回	教材の学修：SF、ディストピア物語、学園物語等、ジャンルものとの類縁性の確認
第 5 回	教材の学修：SF、ディストピア物語、学園物語等、ジャンルものとの類縁性の確認
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	基本教材 2 の再読とナラティブ分析
第 11 回	「信頼できない語り手」小説の系譜における位置付け
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成